

寒梅（新島 襄）

庭上一寒梅 笑侵風雪開
不爭又不力 自占百花魁

庭上の一寒梅

解説 寒中に咲く梅を、真の先覺的指導者にたとえた詩。

笑つて風雪を侵して開く

語釈 ※寒梅 寒中に咲く梅。早咲きの梅。
※庭上 庭前。にわさき。※風雪 風、雪。きびしく
おごそかなものとしてあげた。※侵 おかす。忍びが
たいのを忍ぶ。※力 つとむ。励んで行なう。
※占 百花魁 あらゆる花のさきがけ。まっさき。
※占 自占 自占しめる。自分のものとする。独占する。

争わず又力めず

通釈 庭さきの一本の早咲きの梅が、平気で風や雪にも
めげずに咲いたことだ。まるで微笑むかのようであ
る。一番咲きを競おうとしたのでもなく、無理に努力
したのではない。自然にあらゆる花のさきがけとなっ
てしまったのである。（人もこうありたいものだ。）

自ら百花の魁を占む